

旧北荷頃小学校体育馆を利用した カーティア案

荷頃小学校の歴史



荷頃地区的特徴

・山に囲まれていて自然豊か

荷頃地区は、美しい日本の中山間地の魅麗な自然を有する地域である。

長岡市内最東に位置し、一級河川の西谷川が盆地を中心にして集落が形成されている。



・過去に800人などの団体による住民と書者の交流が行われていた。



長岡造形大学主催の
ワークショップの様子



サイクリスト達が行く先で必要とするのは、自転車を駐輪する場所だ。

サイクリスト達が使用している一部の自転車(ロードバイクやMTB等)には基本的にスタンドが装着されていない。そのため、カフェには専用の駐輪場所を整備した。こうすることで、カフェを利用しやすくなり、駐輪におけるマナーの向上にもなる筈だ。

体育馆には、元々大きな窓ガラスは無かったが、景色が良いのと、風が抜けやすいことから、大きな窓を設置した。

この窓は左右から開き、真ん中で重なり合うようになっている。そうすることで、通気性を向上させ、夏でも快適に過ごせるようにした。入口の前には、ウッドデッキを設けた。入口のすぐ横を見れば、スイーツの製作風景を間近で鑑賞することができる。



駐輪場は、自転車のサドル部分を上部バイブに掛けることで駐輪しやすいようにした。



諸橋酒造「景虎」
日本酒だけでなく、
梅酒も製造している。



お土産用は1個～18個入りまで

荷頃地区で有名なものは、諸橋酒造の日本酒「景虎」があげられる。

ドライブ客は、それをお土産に買っていく事ができるが、サイクリング、ツーリング客は恐らく不可能だろう。そこで、考案したのが日本酒を利用したスイーツの製品化だ。スイーツにしまえば飲酒運転にはならない上に、酒瓶1本よりかさばらずに済む。何より、「景虎」の名前をスイーツの分野で広めるチャンスになる。お土産用のロールケーキや、一口サイズのバウンドケーキなどなど。日本酒の活躍の場は若者と住民たち次第で広がるはずだ。

長岡中央図書館の林務課図書
BMbook mobile) 来百族号

移動図書館「来百族号」は、以前から荷頃地区センターまで図書サービスを行っていたバスである。

七月上旬に読み聞かせや、ワークショップなどの様々な企画を小学校、その他公共施設で行っている。

コンセプト

荷頃地区の住人は、以前から図書があった公会堂図書室「荷頃アトリエ」の若者と一緒に地区的両面性を発信した。

そこで、荷頃アトリエの若者が考案したのは、既存の体育馆を改修することによって、荷頃地区の体育馆をカフェとしてリバースエンジンすること。移動チラシゼンの販賣店などだ。

そこで、荷頃町の森林にかけての桜畠地区を多く通過するサイトリスト、ワーキングツアーライブなどを考案した。

特にサイトリストは、毎年春に行われる長岡・諸橋チャレンジサイクルが開催された時に、荷頃地区に多くの人々が来訪し、その中で若者に利用できるカフェとして体育館で行なうことを考案した。

荷頃地区には、「景虎」で有名な諸橋酒造があるが、運営する方に日本酒は認めていない。そこで、日本酒を飲むための施設を作れ。それを新規に立ち上げることで若者たちに活動的興味を持たせ、興味を持ったときに立ち上げることで若者たちに活動的興味を持たせることとした。

また、長岡中央図書館の移動図書館「来百族号」や、移動式図書サービスなどの施設として機能を実現してもらうと共に、荷頃の隣人となり区画の上に移入する計画であると考えられた。

また、長岡中央図書館の移動図書館「来百族号」や、移動式図書サービスなどの施設として機能を実現してもらうと共に、荷頃の隣人となり区画の上に移入する計画であると考えられた。

こうした、活動的興味となるような施設を整備することで、近くの図書館以外の魅力を認識してもらうとともに、問題解決の手段を経営主体と住民住人が一体となって探れる施設を目指した。

・施設の活性化
荷頃地区は他の中心的な施設を利用している集落だが、自転車の普及率は、大正時代から昭和時代にかけては、他の地区よりも高いといえる。昭和初期では、自転車の普及率は、他の地区よりも高いといえる。そのため、子どもはスクールバスを使い自転車で通学する通学手段が多かった。そのため、自転車の普及率は他の地区よりも高いといえる。そのため、子どもはスクールバスを使い自転車で通学する通学手段が多かった。そのため、自転車の普及率は他の地区よりも高いといえる。

・施設地区
・少子高齢化
・高齢者による骨下ろしの困難

高齢者地区は骨下ろしの困難な施設である。今後はさらに高齢化すると、高齢者による骨下ろしの困難な施設となる。施設は、高齢者地区に骨下ろしの困難な施設となる。

・生活基盤サービスの質化
・高齢者による骨下ろしの困難

高齢者地区は骨下ろしの困難な施設である。今後はさらに高齢化すると、高齢者による骨下ろしの困難な施設となる。施設は、高齢者地区に骨下ろしの困難な施設となる。

敷地平面図



荷頃地区的問題点

・施設の活性化

荷頃地区は他の中心的な施設を利用している集落だが、自転車の普及率は、大正時代から昭和時代にかけては、他の地区よりも高いといえる。昭和初期では、自転車の普及率は、他の地区よりも高いといえる。そのため、子どもはスクールバスを使い自転車で通学する通学手段が多かった。そのため、自転車の普及率は他の地区よりも高いといえる。

・施設地区

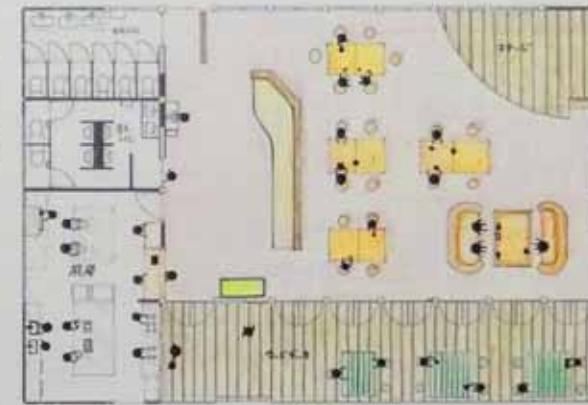
・少子高齢化

・高齢者による骨下ろしの困難

高齢者地区は骨下ろしの困難な施設である。今後はさらに高齢化すると、高齢者による骨下ろしの困難な施設となる。施設は、高齢者地区に骨下ろしの困難な施設となる。

・生活基盤サービスの質化

高齢者地区は骨下ろしの困難な施設である。今後はさらに高齢化すると、高齢者による骨下ろしの困難な施設となる。施設は、高齢者地区に骨下ろしの困難な施設となる。



内部間取り